

北杜市環境保全事業実施報告書

団体名	甲斐駒清流懇話会
事業名	環境保全事業（砂防校外授業）
事業概要 ※実施内容、事業期間等を記入してください。	砂防校外授業は武川・白州小学校の児童とその親を招き昭和34年に起きた台風による土砂災害の歴史を伝え、自然災害体験車、降雨体験車で災害の疑似体験やパネル展示や被災体験者の講話などで自然災害委の恐ろしさを学び防災意識の知識を学ぶ伝統的な事業で毎年6月に行っているが台風の影響で大雨となり、直前で中止になった。小学校からの要望で来年に3・4年生として同時開催することになった。
備考	※事業実施に関する資料（写真等）を添付してください。

1 収入の部

内訳	決算額
他の補助金・助成金	89,760
参加料	
寄付金・協賛金	
その他	
小計(B)	89,760
自己負担金	395,094
合計	484,854

2 支出の部 (単位：円)

内訳	決算額
委託費（特別分）	459,294
食料費	2,278
消耗品費	21,861
燃料費	1,111
使用料及び賃借料	310
合計(A)	484,854

※ 収入の合計と支出の合計は一致させること

補助金交付額(G)

263,300円

$G = (A - B) \times 2/3$	ただし、補助金交付決定額以下
--------------------------	----------------

北杜市環境保全事業実施報告書

団体名	甲斐駒清流懇話会
事業名	環境保全事業（防災フェアー&甲斐駒清流ウォーク）
事業概要 ※実施内容、事業期間等を記入してください。	昭和34年に起きた土石流災害の歴史の伝承と被災地関連の資料の展示や実験模型の見学や自然災害体験車、降雨体験車で災害の疑似体験ができる。また自然景観や渓流環境を楽しむウォークを開催した。道の駅はくしうは防災拠点になっており、協働で災害時の非常食の配布や会員企業の協力で健康度チェックも行った。 峡北消防署の協力で高所作業車や救急車の展示などもした。開催日：令和5年10月28日（土曜日）開催
備考	※事業実施に関する資料（写真等）を添付してください。

1 収入の部

内訳	決算額
他の補助金・助成金	110,000
参加料	
寄付金・協賛金	4,600
その他 収益金	9,400
小計(B)	124,000
自己負担金	693,120
合計	817,120

2 支出の部 (単位：円)

内訳	決算額
補助対象経費	委託費（特別分） 385,220
	食糧費 24,000
	印刷製本費 287,650
	広告費 95,128
	通信運搬費 4,478
	消耗品費 2,644
	報償費 3,000
	原材料費 15,000
合計 (A)	817,120

※ 収入の合計と支出の合計は一致させること

補助金交付額(G) 462,080円	G = (A-B) × 2/3	ただし、補助金交付決定額以下
-----------------------	-----------------	----------------

※ 報償費はウォークの受付に待機する医療従事者に対する謝礼

団体名	甲斐駒清流懇話会
事業名	新しい川づくり委員会（その他の環境保全活動）
事業概要 ※実施内容、事業期間等を記入してください。	毎年恒例の委員会で実施する環境保全活動 ③道の駅の人工河川を利用した小学生以下の児童にイワナのつかみ取りや捕まえた魚を塩焼きにして配布した。観光客には環境活動の紹介を兼ねてイワナの塩焼きや地域の特産物を販売した。さらに土砂災害の歴史をパネルにして展示会を同時開催。④小武川の源流域に造った人工産卵河川のメンテナンスを行った。⑤河川美化活動他：大武川、尾白川の河川敷の草刈りをした。また道の駅で当会が環境活動の拠点にしている東屋の修理をした。県外研修は東京支部企画の仙台市・新庄市の地滑り対策事業を見学し、県内研修として大臣表彰発表会の報告会を開催した
参考	※事業実施に関する資料（写真等）を添付してください。

収入の部		支出の部	③渓流祭り	④人工産卵河川	⑤その他の活動
他の補助金 助成金		内訳 使用料及び賃借料			104,500
寄付金		通信運搬費			15,092
その他の 収益金	97,000	消耗品費	13,592	5,094	56,771
小計 (B)	97,000	食糧費	16,000	26,528	65,399
負担金	309,976	原材料費（特別分）	74,000		
合計	406,976	委託費			30,000
		小計	103,592	31,622	271,762
		合計 (A)			406,976

※収入の合計と支出の合計はいっちさせること

補助金交付額 (G)

206,600円

$G = (A - B) \times 2/3$

ただし、補助金
交付府決定額以下

K S K

Kaikoma seiryuu konwakai

令和6年4月1日

甲斐駒清流懇話会

北杜市白州町台ヶ原195-5

発行責任者 遠山・日向

甲斐駒清流懇話会は令和4年5月甲斐駒清流懇話会が新たに任意団体として再出発してから令和6年、2年目を迎えました。法人から移行しても活動の内容そのものは変えず、これまで通りの環境保全活動として環境教育と防災思想の普及などの活動を推進しています。

当会は白州町・武川町を中心に広く地域の発展のために、団体発足以来25年余りの年月を環境保全活動に費やしてきました。北杜市地域は昭和34年・57年の台風による土砂災害で大きな被害を受け、白州・武川地域に起きた富士川支流の土砂で河川が氾濫し、地域の街並みはことごとく崩壊し多くの人命、家屋、田畠を失う甚大な被害を受けました。近年では河川の改修が進み、渓流環境が保全管理され、安全な生活が営まれる環境になりました。しかし地球全体はオゾン層の減少による温暖化や大きな気候変動が世界中を脅かしています。これまで人々が経験したことのない熱波や大洪水が起き、異常気象によって起こる災害、豪雨がもたらす土砂災害等、世界各地が大きな自然災害に見舞われています。この現状を見据えつつ、私たちの団体はこの白州・武川地域に起きた自然災害の歴史を伝承し、街の伝統的な文化や安心して暮らせる生活を守るために、災害に対する日頃の心構えなど防災思想の普及を行うことを主たる目的として、美しい渓流環境や災害から暮らしを守る新たな地域づくりのために活動を進めています。年間の事業は一般県民を対象に災害について学べる防災フェアと渓流環境を知るための甲斐駒清流ウォークを開催、地元の小学校の児童と父兄と共に学ぶ砂防校外授業、道の駅「はくしゅう」の人工の小川を利用して渓流に棲む魚イワナを放流し、子供たちがつかみ取りを行う渓流祭り、小武川の源流域に造った人工産卵河川でイワナやヤマメの生息域を作り、その環境を保全し、児童の環境教育に生かそうと考えています。そのほか自然災害の被災地見学や街づくりの先進地への研修、大武川、尾白川の河川美化活動などを行っています。当会が進める環境活動と環境教育は行政、企業、地域住民や学識経験者とともに協同で開催しています。これまで様々な活動に対する功績が認められ、数多く大臣表彰を受けています。今後も継続して地域の環境保全に尽くし、防災思想の活動と環境教育に力を入れていきます。最近の社会状況はコロナ禍から立ち治って少しづつ良い方向に変化してきており、人々の日常も通常の生活に戻りつつあります。令和6年はさらなる活動が期待されます。

○令和5年度の事業報告

○砂防校外授業の中止

令和5年6月1日（金）北杜市武川町三吹 大武川堰堤の復興記念公園「ゆらみず」にて砂防校外授業を開催する予定で準備いたしましたが2日の台風接近による大雨が続いたため、直前で中止せざるをえませんでした。武川小学校・白州小学校の児童とその保護者の方々にとっては残念でしたが。令和6年度に繰り越すこととなり、3年生、4年生として改めて令和6年10月10日に実施することにいたしました。

○防災フェア&甲斐駒清流ウォーク

令和5年10月4日（土曜日）白州町 はくしゅう道の駅構内にて開催しました。

当初は6月2日に開催予定でしたが台風による大雨で中止となり、改めて秋に開催したいと計画しました。はくしゅう道の駅構内の会場には自然災害体験車、実験模型、健康チェックのテント、消防署から新型高所作業車などが並び、地域の特産物の販売所も設けました。コロナ化が続き開催が危ぶまれていましたがようやく開催できました。当日は多くの参加者が災害の学習や災害の疑似体験をして楽しんでいました。また、甲斐駒清流ウォーク・フォトランナーも同時に開催し、地元の住民や常連のファン、観光に来た人々の飛び入り参加等、多くの方がコロナ対策の検温や健康度チェックなどを受けてウォークに出かけていきました。ウォーク参加者は帰りに水やお土産をゲットして、「はくしゅう道の駅」の接待で災害時の非常食用の野菜汁をふるまわれ、喉の渇きを癒していました。

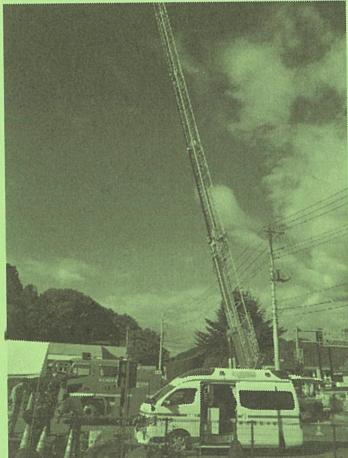
○溪流祭りの再開

はくしゅう道の駅で毎年行なわれて来た溪流祭りはコロナ禍による中止が続きましたが今年は8月26日に開催することができました。久しぶりにずぶ濡れになりながら放流したイワナをつかまえる子供たちの歓声を聞き、開催できて良かったと感じました。その後は親子で捕まえたイワナの塩焼きに舌鼓を打っていました。観光客も溪流魚に興味を持ち、多くの人が炭火焼きのイワナの味を楽しんでいました。

また4月27日にはこのイベントが行われる道の駅の会場「東屋」が痛んできたため、会員総出で竹を組んで屋根を補修し、屋台骨の支柱を取り替えました。この東屋は普段は一休みできる木造の椅子やテーブルがあるため、観光客のやすらぎの場所にもなっています。



つかみ取り



防災フェア

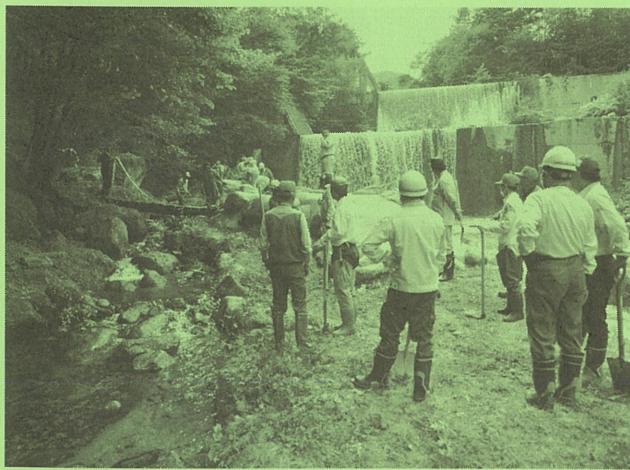


東屋メンテ

○人工産卵河川のメンテナンス

大雨で流された人工河川の復旧作業が終わり、イワナやヤマメの姿が小川に戻り、産卵できる場所となっていることが認められました。令和5年9月27日に峡北漁協の皆さんと富士川砂防事務所の皆さん、県の技術水産センターの大浜さん、会員総勢45名が参加して、草刈りや川底の整備を行うことができました。すでに溪流魚の産卵や孵化の様子が確認できる状態になっています。人工河川への導入部の道も広く

なり、見学路も安全に通ることが出来るようになったので令和6年度の秋には子供たちを招いて、ヤマメの産卵状況などが見学できる環境教室を計画したいと考えています。



人工産卵河川

○県外研修会 東京支部主催の現地見学会実施

東京支部企画の現地見学会に参加しました。コロナ禍の時期には延期していましたがようやく遠出もできるようになり、久々の県外研修でした。本部から砂田、遠山、東京支部から堀部、竹歳、山下の5名が参加しました。

北陸新幹線に乗り、仙台駅からはレンタカーで新庄河川事務所に向かいました。

新庄河川事務所の案内で各地の災害被災地を見学しました。最初の見学地の最上川三難所の一つ三ヶ瀬は令和2年7月の豪雨被災地であり河川の形状が変わってしまったとのことです。その日は真室川温泉の梅里苑に宿泊、津軽三味線の実演を楽しみながらおいしい夕食を頂きました、翌日も新庄河川事務所の皆さんとの案内で砂防堰堤を活用した小水力発電所を見学し、豪雨災害で土砂に押し流された舛玉第2砂防堰堤の巨大な鉄骨の堰堤を曳家工法で押し戻す補修作業現場を見学、自然の力の脅威を改めて実感しました。その後、月山地滑り対策事業を行っている志津地区排水トンネルの中を歩いて説明を受けた後、寒河江ダムを見学しました。東京支部の竹歳さんには企画からJR案内、見学地巡りの車の運転まで大変お世話になりました。

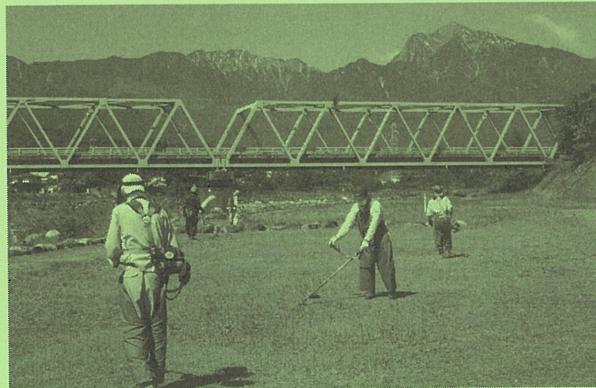


現地見学会

○河川美化活動

例年、大武川の堤防や復興記念公園の周辺の草刈りを春と秋に行います。令和5年度は5月24日に大武川の「ゆらみず」復興記念公園、8月24日に「はくしゅう道の駅」の草刈りを行いました。復興記念

公園の周辺は毎年手入れをしているので桜の並木も順調に育ち、春は桜が咲いて河川公園らしくなり、災害の復興の記念モニュメントの周辺でキャンプや魚釣りをする人などの利用者も増えています。白州、武川の小学校の児童や父兄を招く砂防校外授業の活動場所でもあり、会員の努力で植樹や休憩用の木材などを設置して公園としての環境も整えてあります。近年地域の人々が安心して川遊びに利用できるようになりました。



河川清掃

○地域の活動の参加

6月18日白州町河川清掃に会員3名参加、9月9日神宮川の玉砂利拾いに7名参加、

○毎年開催している事業の令和6年度の予定

※総会 5月

※防災フェア&甲斐駒清流ウォーク 6月1日（土）

※大武川 「ゆらみず」復興記念公園周辺の草刈り 9月

※砂防郊外授業 10月10日（木）

※渓流祭り 8月又は9月の土曜日

※人工産卵河川メンテナンス&環境教室 10月

※被災地見学会 10月～11月

※台ヶ原 宿市参加 10月18～20日

※活動報告会 12月

○会員・賛助会員の募集をしています。

会の活動の趣旨に賛同の方は是非、活動を応援してください。正会員、賛助会員いずれも大歓迎します。正会員は事業の活動・運営に協力していただき、賛助会員は会の活動に支援をいただき、会が催すイベントにすべて参加できます。また毎年会が発行する情報紙をお送りします。入会は常時でき、退会も自由です。会費は下記のようになっています。

入会金 1000円 正会員の年会費：個人 3000円・法人10000円

賛助会員入会金はありません。個人1口1000円～3000円・法人10000円

入会申込先：北杜市白州町台ヶ原159-5 地域活性化センター山村広場休憩室内

甲斐駒清流懇話会事務局あて

連絡先電話&FAX： 0551-26-3633（日向）または055-253-8779（遠山）

※申し込みされた方には後日振込用紙を送らせていただきます。